

ご 挨 拶

同窓会長 中舎 美津男

はじめに

この会報が、2万人余の会員の皆様のお手に届くのは、年末か平成20年の新春の頃かと思います。皆様方には、それぞれの地にあつて、なくてはならない人としてご活躍の事とお慶び申し上げます。

私達の同窓会は、総務部を始め、事業部、組織部、広報部がそれぞれ当初の計画に基づき、着実にその歩みを続けています。概略に就きましては、本会報に一端が掲載してあります。ご一読の程よろしくお願い申し上げます。

会長に再選されました

会長推挙委員会、理事会、評議会等の議を経て、同窓会長を継続することになりました。新役員ともども努力いたします。よろしくお願い申し上げます。

前号までに触れた内容

- 会長就任の挨拶
 - 本会の目的（会員相互の親睦・学識の高揚・母校の発展と教育文化の進展）
 - 母校の現状と活躍（独立法人化・文部科学省による複数のGP獲得）
 - 教員採用試験の成果（高い合格率）
 - 本学校教育部のホームページの活用を！（良質の情報が沢山）
 - 母校の発展が本会の発展に連動（同窓会員としてのあり方）
 - 教員採用試験受験者の増を！（せめて200名の受験者の確保）
 - 同窓会の意義（前置きなしの人と人との絆……TALKについて） 等
- 平成19年度のトピックス

本年度の母校における数々の業績の中で、平成20年度からの専門職大学院の開設の準備が着々と進み、開設許可の報を待つのみ現状をうれしく思います。同時に、本年度より開成されたACT支援室に本会の会員4名が採用され活躍されています。また、本年8月には、教育学部のオープンキャンパスが実施されました。保護者に参加を呼びかけたのは初年度でもあり、保護者参加はまだ少数でしたが、ターゲットの高校生は1,000名を超す盛況でした。

同窓会会員として思うこと

私は、昭和31年度に英語英文学科に入学を許可され、昭和34年度に卒業しました。昭和35年度から平成9年度まで、岐阜県の小学校に4年間、中学校に20年間、



教育委員会に14年間勤務しました。60歳の定年から今年で丁度10年目となりました。

私は、本学で学ぶことができ、義務教育関係の仕事に従事できたことを、70歳の現在もしみじみと良かったと思っています。

子どもたちから学んだこと

その1（幼児から）（G市K幼稚園にて）

いつかの初夏の頃、ある公立幼稚園を訪問しました。一人の幼児が花に水をやっていました。私は、腰をかがめて「なぜ水をやるの？」と聞きました。

私は、その子の返事を予想しました。「水をやらないと花が咲かないから」とでも言うだろうと思いました。しかし、その子の返事は、私の予期したものとは全く異なっていました。「きれいな水をやるときれいな花が咲くんだよ」と言いました。私は、短い文の中に否定文を2回も使っていました。その子の返事には否定文は一つありません。

年齢を重ねるにつれて、「…しないと…してやらないよ」式の表現が多くなることを反省しました。

その2（小学生から）（K市C小学校の実践）

学校を訪問したとき、子どもたちのトイレをのぞくと、サンダルをきちんと揃えるために、木の枠が置いてあったり、足型が描いてあったりするのを見かけたことがあります。

トイレは臭かったり、暗かったり、汚かったり…三Kどころか五K六Kもあります。

そこで、C小学校ではトイレを快適な場所にするために、排尿後、水を10秒間流す・便所の照明を明るくする・花や子どもの作品を飾るなどしました。トイレが快適な場所になると、子どもたちは、いつでもゆっくりとサンダルを揃えて出て行くようになりました。

環境は人を作る。人が環境を作るということを子どもたちの生活から学びました。

その3（中学生から）（G市N中学校の実践）

〈使用済み割り箸三膳（6本分）からA4の上質紙1枚ができる。100人分（約400g）から週刊誌1冊ができる。2,500人分からのティッシュ15箱ができる。〉

これは、「割り箸の旅」という新聞記事から使用済みの割り箸が立派に紙の原料になることを知った。中学生の呼びかけに応え、学級や学校が取り組んだ活動の中で学んだことです。

合宿や修学旅行で使った箸も持ち帰ったり、近所の飲食店などへも依頼し、月約300kgを集め続けました。1年間で約4トンも集めました。ティッシュに換算すると約7千箱にもなります。資源を大切にするために、足元からできることを一つ一つ確実に実践することの大切さを学びました。（Think Globally, Act Locally）

おわりに

本会に直接的・間接的に関わりのある大勢の皆様方に深く感謝申し上げます。

教育学部の現状と将来

教育学部長 古田 善伯

今回は教職大学院と免許更新制について報告させていただきます。教職大学院については、平成20年4月から設置されるという報道がなされていますが、岐阜大学教育学研究科においても教職大学院（教職開発実践専攻）を設置するための準備を着々と進めています。現在、教職大学院の設置を申請している大学は国立大学が15大学、私立大学が6大学となっていますが、これらすべての大学に設置が認可されるとは限りません。



設置が認可されるには、設置審の厳しい審査を受け、設置条件をクリアしなければ設置が認可されないこともあり得ます。今年の12月には正式に設置できるかどうかが明確になってきます。設置が認可された場合は、来年の2月ごろに入学試験が行われることになります。

教職大学院を設置するには、県教育委員会及び岐阜市教育委員会などと密接に連携してカリキュラムなどを構築することが求められ、また専任教員の中に学校等での実務経験のある教員を4割以上含めることが求められています。そのため、今回申請している「教職開発実践専攻」（教職大学院）の教員として学校での実務経験のある教員を採用する計画を進めています。教職大学院が正式に設置された際には、同窓会の皆様に改めてご報告させていただきますが、今回申請している教職大学院の概要については本学部のホームページに掲載していますのでご覧下さい。（<http://www.ed.gifu-u.ac.jp/~kyoiku/index.htm>）

免許更新制については、文部科学省のホームページにも掲載されていますが、平成21年4月から教員免許更新が開始されることになります。最近になって教員免許更新制の具体的なイメージが見えてきましたので、この制度の概要について説明することにします。

この更新制度では、30時間以上の講習を受けることが義務となります。講習の内容は下記の5項目を含むものとなりますが、具体的な内容については中教審で今後さらに検討されることになっています。

①教員としての使命感や責任感等、教育的愛情等に関する事項

②社会性や対人関係能力に関する事項

③幼児・児童・生徒理解に関する事項

④教科等の指導力に関する事項

⑤その時々で求められる教員として必要な資質能力の刷新（リニューアル）に関する事項

今年の9月に文科省が提示した講習の例示では、必須科目の講習を2日間行い、選択科目の講習を3日間行うようになっています。現職の教員の場合、この講習を免許取得後10年ごとに受けることになりますが、運用上最初は35歳、45歳、55歳の時点で講習を受けることになります。ペーパーティーチャーの場合は、実際に教員になるときに講習を受けることになり、教員にならなければ取得した免許は生涯維持されます。これに対して、平成21年4月以後に卒業して免許を取得する学生の場合は、免許取得後10年毎に講習を受けることが義務となり、この講習を受けないと免許が更新されなくなります。

免許更新を開設する主体は、当初は教育委員会が中心となっていましたが、最近では免許のための課程認定を行っている大学すべてが対象として考えられています。そのため、本学部でもこの免許更新事業を行うことになりますが、岐阜県内では毎年約2,000名の教員が更新講習を受けることになり、この内の多くを本学部が引き受けることになりそうです。岐阜県には私立大学がありますので、大学連携により、講習を分担して対応する必要があると考え、そのためのシステムを検討しているところです。この更新を免除されるのは校長、教頭、指導主事などとなっていますので、同窓会の皆さんの中で指導的立場にある方にはこの講習の講師としてご協力をお願いできればと考えています。

以上、教職大学院と免許更新制について説明してきましたが、本学部としてはこれからも教員養成と教員研修を充実させていきたいと考えています。今後同窓会のご援助を頂くことになると思いますが、本学部の発展のため、一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

平成19年10月

平成19年度岐阜大学教育学部同窓会評議会記録

日時 平成19年6月2日

場所 教育学部第一会議室

評議会成立に関して 評議員132名中23名出席、委任状101名で成立
記録

議事 ① 平成18年度事業報告

総務部会(岩田部会長)、組織部会(加藤部会長)、事業部会(江端部会長)、広報部会(村瀬部会長)から資料に基づいて報告があり審議の結果これを承認した。

② 平成18年度決算報告

後藤総務部副部会長から平成18年度決算報告があり、続いて秋山会計監査委員から会計監査報告があった。審議の結果これを承認した。

③ 次期同窓会会長選出

北島同窓会長推挙委員長より推挙委員全員で次期同窓会長に中舎美津男氏を推挙する旨の報告及び推挙理由について説明があった。これを受け審議の結果中舎美津男氏を次期会長として決定した。続いて中舎美津男新会長から挨拶があり、新役員の提案がありこれを承認した。

④ 平成19年度事業計画

総務部会(岩田部会長)、組織部会(加藤部会長)、事業部会(江端部会長)、広報部会(村瀬部会長)から資料に基づいて説明がありこれを承認した。

⑤ 平成19年度予算審議

後藤総務部副部会長から平成19年度予算案について説明がありこれを承認した。

平成18年度教育学部同窓会決算報告

[一般会計]

収入の部

科目	決算金額
前年度繰越金	3,849,216
同窓会費	8,400,000
雑収入	3341
合計	12,252,557

支出の部

科目	決算金額
運営費	2,797,341
庶務費	1,833,618
役員会費	319,826
同窓会リーフレット作成	643,897
組織活動費	671,470
名簿管理費	210,840
名簿作成助成費	60,630
同窓会入会式費	400,000
学部援助費	603,521
学部活動援助費	543,521
教育文化助成費	60,000
事業活動費	1,624,658
成果刊行費	781,410
会議費	663,812
事務費	179,436
広報活動費	2,421,164
会報印刷費	538,125
会報通信費	1,883,039
次年度繰越金	4,134,403
合計	12,252,557

[事業活動基金]

収入の部

科目	決算金額
繰越金	45,238,542
利息	13,838
合計	45,252,380

支出の部

科目	決算金額
次年度繰越金	45,252,380
合計	45,252,380

[教育実践事業基金]

収入の部

科目	決算金額
繰越金	5,078,177
利息	3,355
寄付金	100,000
合計	5,181,532

支出の部

科目	決算金額
教育実践論文顕彰費	195,000
次年度繰越金	4,986,532
合計	5,181,532

平成19年6月2日評議会で承認済み。

平成18年度教育実践研究助成事業の報告

事業部会長 江端 雅司

本同窓会事業の大きな柱の一つである教育実践研究助成事業も、今年度で第22回を迎えた。毎年、6月に発刊する「教育実践研究入賞論文集」に、入賞者の論文概要や講評が掲載されているが、巻末には“榮譽を讀えて 歴代入賞者の記録”のページがある。第1回の昭和60年度の入賞者は、優秀賞30名、優良賞62名であった。現在のような「最優秀賞1名・優秀賞9名・優良賞40名・新人賞20名」は第11回の平成8年度からである。それにしても、22年間に25頁にわたって歴代入賞者名が掲載されている。その重みをしみじみと感じる次第である。惜しくも、入賞されなかった方も含め毎年1,000名以上（当初の応募数はわからないが）の方々が応募され、いつしか“岐大論文”の名で親しまれ、名実共に権威ある研究助成事業となった。

今年度も、岐阜県教育委員会（学校支援課及び教育事務所）と各市町村教育委員会のご支援をいただき、『入賞論文集—第22集—』が発刊され、入賞者はもとより、県内の小中学校及び上記の教育委員会等に配布することができた。

1 応募状況とその傾向

県内の教職員から1,514名、1,479編の論文の応募があった。内訳は、校長14名、教頭17名、教諭1,431名、養護教諭42名、栄養職員3名、事務職員4名、ALT等3名である。性別では、男性740名、女性774名、校種別では、小学校902名、中学校612名である。今年度もALTの応募があり、この事業が職種を超え、多くの教職員から幅広く応募されていることが裏付けられる。

年代別にみると、20代は516名、30代は491名、40代は396名、50代は111名である。特に、20代の3年間を見ると、平成16年度390名、17年度は437名が示すように応募者数が急増しており、20代の頑張りは頼もしい限りである。

論文の領域については、1,479編の内、教科は1,030編で算数・数学科、国語科が多く、続いて社会科、理科と続き、4教科で662編を占めた。4教科以外では、保体、英語が多かった。他の領域では、特別支援教育、学級経営の応募が目立った。

2 審査会の動向

審査の観点は、

- (1) 教育の今日的な課題をふまえ解決の方向が明確であるか
- (2) 目標、計画、指導、評価の一体化が図られているか
- (3) 児童生徒の成長や変容の姿が表れているか
- (4) 創造性・妥当性が見られ、説得力のある論文であるか
- (5) 教育実践・研究論文として明確な表記であるか

の5点で、例年同様、厳正に審査が行われた。

最優秀賞は、池田町立宮地小学校の今村敏文教諭の論文〈特別支援教育〉「できる喜びにつながる重心児の指導の工夫～子どもが始めた小さなことに目をとめて～」に決定した。

今村敏文教諭の論文は、「できる実感を促す教育的援助を段階的に行っていけば、児童は主体的にやり遂げる姿を向上させていき、障害の改善・克服を図ることができる」という仮説のもと、「障害に応じたできる状況を踏まえた自立活動の指導の工夫」、「できる実感を促す教育的援助の工夫」、「できる喜びをつかんで主体的にやり遂げる姿を向上させる交流及び共同学習の工夫」の3点から、実践・検証を行っている。

きめの細かい指導・援助を通して、本児がめざましく成長する姿をうかがい知ることができ、極めて優れた論文である。さらに、特別支援教育を推進する上で、共生社会の実現に向けてのインクルーシブ教育の重要性が取り上げられており、その視点からも本論文は大変意義のある実践となっている。

3月の2回の審議会において、それぞれの教育実践論文の優れている点、課題及び改善点等について意見が出された。

- (1) 本年度の論文には、岐阜県で実施されている学習状況調査の結果分析等を活用した改善の実践事例があったり、特別支援教育、食育、健康教育、図書館教育の事例等があったりして、多岐にわたって教育の今日的な課題に対処されている。改めて、本教育実践研究事業の持つ意義は大である。
- (2) 実施要綱にそって、各論文の冒頭に概要が位置づけられ、主題具現の構想がわかりやすく、レベルの高い優れた論文が多い。また、教師の確固たる指導理念のもとにきめの細かい手だてを講じ、子どもの変容していく姿が的確に捉えられている。
- (3) 論文のための論文でなく、子どもたちに真に生きる力を身に付けさせるため、絶えず真摯な取り組みをし、自己研鑽に励む姿に敬意を表したい。

そうした教職員の姿を、将来教員を目指す学生たちにこの論文を通して伝えていきたい。

- (4) 学校からの要請があれば、「サポート訪問」をして、論文を書く構想づくりや心がけたいこと等、応募者のニーズに応えている教育事務所や市町村教育委員会がある。
- (5) 応募された先生方の論文で、「どこまでがオリジナルで、どこまでが学校や教科研の考え方なのか、はっきりしないものがある。文献をはじめ出所を明示すべきではないか。」
- (6) 教科の本質を意識し、小中高を見通した指導内容の系統性を踏まえ、なおかつ、仮説と指導の因果関係が明確であるような客観性と再現性が保障された論文を期待したい。
- (7) 「講師の先生から、優秀な作品の応募があった。応募条件の見直しをしてほしい。“岐大論文”事業の懐の深さを示してほしい。」という意見が出された。この件に関しては、中舎会長をはじめ事業部会で、実施要綱の見直しを図り、6月上旬の理事会・評議員会で承認され、平成19年度から「常勤講師」も応募資格が得られるようになった。

3 新たなスタートの3年目

今年応募された1,514名の教職員の方々は、市町村教育委員会の締め切りが1月10日であるため、実質、冬休みにラストスパートをかけて論文にまとめ上げられたことになる。自己の実践をまとめ上げ、世に問うことは、また新たな自己を構築することにつながるが、改めて自己研鑽する生き方に敬意を表する次第である。

新しい「実施要綱」となって、平成19年度は3年目となる。A版10頁に論文をまとめ上げる要領も定着してきた。奮って応募くださるようお願いしたい。

(「平成18年岐阜県小中学校教育実践研究入賞論文賞―第22集―」、参照)

● ● ● ● ● ● ● ● ACT支援室より ● ● ● ● ● ● ● ●

教育の道を志す後輩の育成に燃える4人の新人(!?)たち

大塚 頼明(国語科) 田口 和男(生物科)

松岡 博(物理科) 安田 重彦(数学科)

あいうえお順 全員昭和43年度卒業 ()内は専門科目

今年度から、ACTプラン支援のため、小中学校での教職経験の長い4名が臨床実践講師として教育の道を志す学生さんのお世話をさせていただいています。教職トライアル・教職リサーチ・教職プラクティス・教職インターンの実習の前後に小中学校での体験をもとに具体的なオリエンテーションをしたり、実習中に各学校を訪れ、意義ある実習が円滑にできるよう状況把握をしてアドバイスをしたりしています。

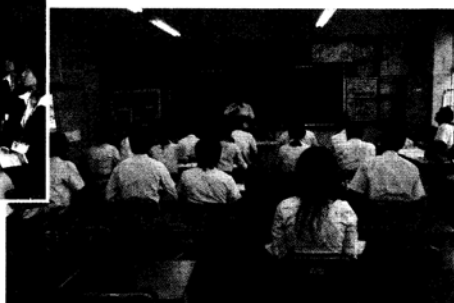
就職支援室の後藤先生、吉田先生と連携して、教員採用試験の面接練習などをした関係から、「二次試験に合格しました。ありがとうございます。」「補欠合格でした。がんばります。」など、報告や相談に教育学部本館3階のACT支援室を訪れる学生が増えてきました。

ACTプランでお世話になる県内の各学校の校長先生をはじめ、面識のある先生方が多いので、私たち4人も心強く思っております。

私たちは、昭和40年に学芸学部に入學し、教養部と学芸学部のあった長良キ



【教職トライアル初日の朝 附属中にて】



【教職リサーチ説明会 長良東小にて】

キャンパスで学びました。その年に岐阜国体があったことを覚えています。2年生になるときに学芸学部は教育学部となりました。当時、教育実習は4年生に位置付けていました。3年生までは教材研究の時間に長良小や長良西小などで授業を見せていただいたこともありましたが、ACTプランのように1年生時から段階を踏んで小中学校で研修・実習を積むということはなかったわけです。望峰寮で寮生活を送った者には、4年生の先輩が教育実習を体験して「ああ、迷っていたけど、俺はやっぱり教師になるぞ。」と決心する姿を目の当たりにする機会がありましたけれども。

現在の学生は、最初から教育学部に入学してくるのですが、それでも、実際に教師になるかどうかと進路を決めるまでにいろいろな思いを抱くようです。概して真面目ですが、それゆえに学校での実習を積むことを通して揺れ動く姿が見受けられます。

4月7日の入学式を終えた今年度の新入生に4月9日に書いてもらった短歌から一部をご紹介します。

四年間私の心も美しくたくましく育て輝きをもて
夢見てた教育学部に入学しもう一努力で教師になれる
かつていたあの先生を目指すため入り来た我れ今日のこの日に
合格の喜びすでに過ぎ去って日に日につのる心の不安
未だ見ぬ先の不安を想像しちこまっている私の心

決して平坦ではない教師の道を志す後輩たちを支援するために設けられた新しい部署で働かせていただく新人4名、力を合わせてベストを尽くします。

月曜日から金曜日まで誰かは勤務していますので、電話、E-mail、直接に部屋への訪問など、声をかけていただき、よき働きができるようにお力添えください。

ACT支援室 電話 058-293-2319

E-mailアドレス

大塚 pt41118335@gifu-u.ac.jp

田口 pt41118317@gifu-u.ac.jp

松岡 pt41118308@gifu-u.ac.jp

安田 pt41118326@gifu-u.ac.jp

//////////////////// 教育学部同窓生の集い開催 //////////////////////

第1回教育学部同窓生の集いが教育学部オープンキャンパス共催事業として実施されました。

日時 平成19年8月2日

場所 教育学部第一会議室

参加者

学部関係 学部長 副学部長 教学委員長 教職大学院設置準備委員
就職対策委員 教職インターン実施委員
講座等代表者
事務長他事務職員

同窓会関係 同窓会長他同窓会運営委員
その他一般会員20名

当日は学部長より教育学部の現状について説明があったほか、学部教員から会員の質問に答える形で学部の今後の方向について説明があった。同窓会会長からは、同窓会の使命と今後の活動について説明と理解が求められた。

尚、平成20年度オープンキャンパス共催同窓生の集いは4月以降同窓会ホームページで御案内いたします。

同窓会HPアドレス：<http://www.ed.gifu-u.ac.jp/~kyoiku/dousoukai/main/index.html>
ふるってご参加ください。



教職員をめざす皆さんへ

やっててよかった！

関市立安桜小学校 堀口涼子（平成15年度理科教育生物学科卒）

小学校3年間の勤務で、1年・3年・5年の学級担任を受け持たせてもらいました。3年間の子供たちとの生活の中で感じた『教師という仕事の魅力』を二つ紹介したいと思います。

一つ目の魅力は、『共に成長』していけることです。1年目の5学年を担当していた時のことです。クラスのM君に「こんな先生いやだ。」と言われました。この頃のクラスは、休み時間になると子ども同士のトラブルがよく起きていました。この状況をなんとか打破しなければと考え、子どもの心をつかむために、休み時間に子どもと遊ぶようにしました。そのことにより、問題を抱えている子や、今まであまり私の近くに来なかった子と接する時間が増え、子どもの心をつかむことができるようになりました。また、子ども同士のトラブルも減り、クラスが温かい雰囲気包まれるようになりました。M君からも、「このクラスでよかった。」と言われ、担任としての喜びを感じました。

二つ目の魅力は、『心が通じ合う喜び』です。2年目の3学年を担当していた時のことです。みんなと同じスピードで活動できず、授業中はずっと、絵を描いたり工作をしたりしているT君と出会いました。「どうしたら、友達といっしょに遊べるだろう。」「どうしたら教科書を開いて勉強できるだろう。」と悩みました。そこで、工作の本を彼に貸したり、T君の作る作品をみんなの前で褒め、「T君はすごいんだ。」とクラスメートに知ってもらったりしました。そうしているうちに、「T君、私にもこれ作って。」と話しかける友達が出てきました。また、T君も、みんなが使う折り紙を入れる『T君ボックス』を進んで作ってくれ、教室に置いてくれました。そして2学期、初めてT君が黒板の文字をノートに写してくれました。3学期になると、一番苦手だったドッジボールに参加したり、自分から友達に話しかけたりするT君の姿があり、私の思いが通じたのだと感激しました。

この3年間は、毎日が勉強で、反省することばかりです。しかし、頑張れば頑張るほど、子どもは「先生、すごいね。」「先生の授業、楽しかったよ。」「先生、ありがとう。」と言ってくれ、とても嬉しくなります。今の私に言えることは、『教師をやっててよかった！』ということです。

教師の魅力は『泣ける』こと！

飛騨市立河合中学校 加納 聡（平成11年度保健体育講座卒）

私は、小学校4年生の時の文集に「将来、先生になりたい」と書いていました。その夢を実現させたのは5年前のことです。教師という職業は、私が想像していた以上に大変な職業です。学園ドラマのように、時間内に問題が解決されることはほとんどありません。また、帰宅の時間が深夜になることは日常茶飯事です。そんな辛いだけのように思える「教師」という職業ですが…大きな魅力があります。それは、『泣ける』ことです。私は様々な場面で、子どもたちと一緒に涙を流しました。その一つ一つのドラマが私のエネルギーになっています。

5年前、私の教師生活は小学校5年生の担任からスタートしました。担任して2か月経った5月の連休明けから、一人の児童（以後A君）が不登校になりました。周りの先生は「加納先生のせいじゃないから…」と言葉を掛けてくれましたが、私は重く責任を感じました。私は出来る限りA君と関わろうと思い、放課後に家庭訪問をして、一緒にゲームをしたり話したりしました。私はこの学級を持ち上げることになり、A君との関わりも続きました。しかし、A君が登校することはありませんでした。3学期になり、卒業式が近づくにつれて、私も学級の子どもたちも「全員で卒業式をしたい」という想いが強くなりました。子どもたちは、A君に手紙を書いたり、卒業式練習の前に、家に呼びに行ったりしました。卒業式の当日、A君は朝から登校しました。卒業式で学級の仲間と一緒に合唱をしているA君の姿を見て、私は涙が止まりませんでした。

また、こんなこともありました。今の学校に赴任し、私は女子バレーボール部の顧問になりました。私は、技術指導はもちろんですが、心（生活態度）の指導を大切にしています。今年の4月、女子特有!?の人間関係（先輩と後輩）が問題となり、私は徹底的に指導しました。その時、3年生のキャプテンから「先生は、わたしのことばかり怒る」と言われました。私は、その生徒とぶつかりながら、何度も何度も話し合い、お互いの思いを言い合いました。3年生にとって最後の大会になる中体連飛騨市大会ではフルセットの末敗れ、試合終了と同時に選手も保護者も、そして私も泣きました。学校に戻り、最後のミーティングでキャプテンから「先生にはいっぱい怒られて腹が立ったこともあったけど、先生のおかげで精一杯やりきれました」と言われ、また涙が流れました。

学校という場所は、四季を感じることができます。春には新しい出逢いがあり、夏休みがあり、落ち着いて学ぶ秋があり、別れがあります。それぞれの場面でドラマがあり、そして、子どもたちと一緒に『泣ける』ことが教師の魅力です。

学生の就職状況について

教育指導員 後藤 忠喜

1 教員採用の状況

本学部は教員養成を目的として設置されています。従って教師を目指す学生の就職状況が本学部の評価と密接に関わってきます。近年、教員の退職者の増加に伴い、教員採用の状況は徐々に改善の方向に向かっています。

(但し、児童・生徒数の減少のため、退職者の増加ほどには新規採用教員の増加が望めないのが現状です。)

小・中・高・特支ともに結構倍率は高いのですが、現役受験生の合格率は良い結果を出しています。しかし、我が教育学部にあつて岐阜県全体に占める新規教員採用数が思ったより伸びていません。その理由として、

- ①教員志望の学生が192名(教員採用試験一次試験実受験者数)と、全体の70.8%にとどまっていること。(内岐阜県受験者数は128名)
- ②昨年合格者数が多かった既卒者が、本年度かなり減少したこと。(この傾向は2年連続です)
- ③中学校、高等学校の専門科目の合格者数がやや少ないと思われること。

などが挙げられます。

学部では、学生に対して教育実践現場での実習体験に基づいた「アクトプランカリキュラム」を平成17年度から本格実施しています。これらの成果が今後教員採用者数の増加に繋がることを期待する一方、現役生あるいは講師をしている既卒者への同窓生各位の一層のご支援をどうぞよろしくお願いします。

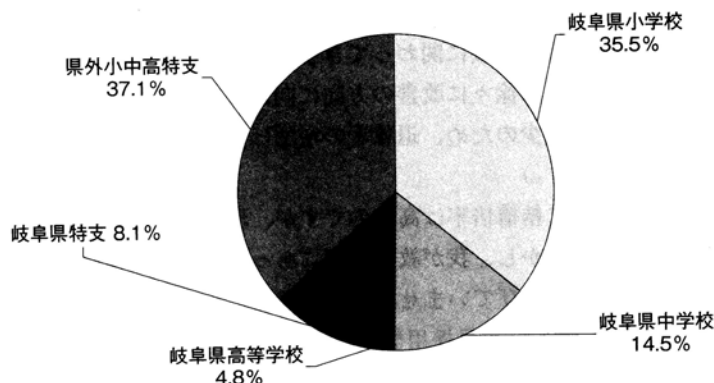
2 学部生・院生の平成19年度実施教員採用試験合格状況

	岐 阜 県				県外小中高特支
	小学校	中学校	高等学校	特別支援	
学 部 生	43	15	4	9	45
大学院生	1	3	2	1	1
合 計	44	18	6	10	46

数字は合格者数(名)。延べ124名が合格でした。

尚、教員志望者で惜しくも採用試験に不合格となった学生には、来年度の就職及び平成20年度の採用試験に向けて、就職対策委員会・学部事務・教育指導担当講師及び今年度スタートしたACT支援室の臨床実践講師4名が加わって、学生のための指導体制を整え、支援しています。

合格者の学部生・大学院生の校種及び県内外比率



3 既卒者の平成19年度実施教員採用試験結果について

臨時的任用などで岐阜県に採用されている既卒者で、岐阜県の教員採用試験を受験した方は153名です。内合格者は小学校29名、中学校3名、高等学校4名、特別支援学校8名で、合計44名でした。

一昨年までは受験・合格されるOBが多くおられたのですが、昨年から受験する方が減少し、従ってOBの合格者は減少してきています。

まだまだ既卒者で教師を目指して頑張っている方が皆様のまわりにおられることと思います。是非是非ご支援をよろしくお願いします。

----- 学生の進路相談；随時受付 -----

教育学部本館1階東の奥に「進路相談室」があります。

後藤忠喜・吉田美美子の2名が随時進路相談を行っています。

月・火・水・金曜日の10:00～16:00

現役・OBを問わず、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

各同窓会の活動

史 学

(事務局 岐阜市立加納小学校 堀 貴嗣)

(1) 史明会総会

- ・期日 平成19年8月19日(日)
- ・場所 岐阜会館

① 総 会

会長挨拶、事業報告・計画、会計報告

② 講 演

「天明・寛政年間 加納藩士田辺氏が見聞した 中山道加納宿を駆け抜けた噂あれこれ」

講師 西村覺良 先生

- ・加納の人々を楽しませたこと
- ・加納の人々を震撼させたこと
- ・田沼意次の世評
- ・松平定信の世評

③ 懇親会

地 理

(事務局 岐阜県図書館 世界分布図センター 奥村雅人)

(1) 第33回同窓会 「濃飛の会」 第39回生(代表 福田辰雄)が担当

- 期日 平成19年8月4日(土)
- 会場 富有柿センター(富有柿の里)

① 総 会

- ・同窓会役員あいさつ
- ・実行委員あいさつ
- ・恩師の先生方のあいさつ
- ・次回40回生代表のあいさつ

② 学習会

「富有柿づくりの現状」について講師の先生よりお話を聞く。その後

古墳と「柿の館」の見学を行った。

(2) 次回活動予定 平成20年8月2日(土)

第40回生(代表 渡辺佳弘)が担当

数 学

(事務局 岐阜市立加納中学校 岩井隆史)

1 総会

[開催日] 平成19年5月19日(土)

[会場] 岐阜大学教育学部本館7階第1会議室

[講演] 講師 岐阜市教育委員会 学校指導室 教育主管

加藤弘和 先生

[研究会] 発表者 50期 堀江尚暢 教諭(岐阜大学教育学部附属小学校)

51期 河合哲兵 教諭(郡上市立和良中学校)

2 同窓会名簿「わしょう」の作成

本年度は同窓会名簿の改訂・発行の年度にあたり、8月初旬に会員に名簿を発送した。

3 夏期研究会

[開催日] 平成19年8月17日(金)

[会場] 中本館 (岐阜県高山市栃尾)

[研究会] 発表者 42期 大坪辰也 教諭(高山市立日枝中学校)

53期 竹村勝仁 教諭(高山市立西小学校)

4 今後の活動予定

- ・数学科卒業予定者に対して、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明を行う。(平成20年2月予定)
- ・運営委員会を行い、来年度の計画を立案する。(平成20年3月予定)

物 理

(事務局 白川町立黒川中学校 鈴木雅史)

平成20年2月に同窓会ができるように計画しております。詳細は関係者に追ってお知らせしますので、ご協力をお願いいたします。

生 物

(事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 渡辺寛樹)

(1) 理事会 年3回

機関誌「岐阜の理科」編集方針、名簿校正作業、機関誌、名簿発送作業、総会打ち合わせ

今年度は平成19年1月に機関誌「岐阜の理科」No20の発送作業、8月に機関誌「岐阜の理科」No21の編集方針と会員名簿校正作業を行った。

20年1月に機関誌「岐阜の理科」No21、「会員名簿」発送作業を予定

(2) 総会(隔年)

同窓会員の研究実践の交流及び、親睦と最近の教育学部生物科の卒業研究報告会を兼ねて行っている。

第17回総会が平成18年8月20日(日)柳戸会館において46名の参加のもと盛大に行われた。

講演 「アリ類の繁殖生態について」

岐阜大学教育学部教授 山内克典 先生

最近の卒論報告

「セキショウとコウホネの受粉様式」 52期 山田麻祐子

「メダカのスニーカーの繁殖成功率はなぜ高い？」 53期 福地浩太

次回、第18回総会は平成20年8月を予定

(3) 機関誌「岐阜の生物」

毎年1月に発刊、全会員に郵送している。(本年度は第21号を発刊の予定)

地 学

(事務局 サイエンスワールド 古田靖志)

地学科同窓会有志により、地学教育に関わる研究会および懇親会を開催した。

音 楽

(事務局 三羽幸夫)

- (1) 正会員数 1028名(物故者を含む)
- (2) 名誉会員(恩師)数 22名(生存会員15名 物故者7名)
- (3) 各種会合の開催

本部役員会・理事会・事務局会・機関誌「間」編集委員会・新役員会

- (4) 理事会において第14次新役員の改選(平成19年6月10日 任期3年間)
- (5) 平成19年度新入会員(第55回)への同窓会説明会の開催(平成19年1月18日)毎年、名誉会長(研究室代表)及び研究室的先生方の御協力により実施。4年生全員参加。
- (6) 機関誌「間」(第37号。年1回発行)の発行と全会員への配付。
- (7) 第14回同窓会・懇親会の開催
平成19年11月18日(日) 国際観光ホテル「石金」にて
- (8) 平成20年度新入会員(第56回)への同窓会説明会の開催
(平成19年12月の予定)
- (9) 平成19年度卒業演奏会出席者への激励 平成20年2月11日



平成18年度 音楽教育講座同窓会 新入会員 第55回

体 育

(事務局 羽島市立桑原中学校 岡部好四郎)

1 総会、還暦祝いの会及び懇親会

- ・期日 19年6月9日(土) 72人出席
- ・場所 ホテルグランヴェール岐山
- ・総会内容 (1) 新入会員(18人)と物故者(3人)の報告
(2) 18年度会務、事業報告、会計報告及び監査報告
(3) 19年度事業計画及び予算案の承認
(4) 大学の近況報告

2 渡邊義行教授退官記念事業

- ・期日 19年2月17日(土) 160人出席
- ・場所 ホテルグランヴェール岐山
- ・内容 (1) 記念講演「私のジョギングと、〈気をつけ〉の歴史について」
(2) 記念パーティ

3 事業の内容

- (1) 19年1月から6月の間に役員会を4回、常任理事会を1回開催して各種の事業について検討した。
- (2) 在学生優秀選手の選出を行い、2月10日に表彰した。対象者23人にメダル及び表彰状を授与した。(役員3名出席)
- (3) 3月24日に新入会員の入会式を開催した。(役員4名出席)

技術・職業

(事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 淀川雅夫)

(1) 平成20年度の総会について

総会は3年ごとに行われますが、次回の総会は「平成20年度に可茂地区」で行う予定です。

(2) 研究大会

同窓会の皆様を中心に組織されています、岐阜県中学校技術・家庭科研究部会県大会が平成19年10月19日(金)に多治見市立多治見中学校で開催されました。皆様よりご支援とご協力をいただきまして誠にありがとうございました。

家 政

(事務局 瑞穂市立本田小学校 谷村三奈)

1 平成19年度の活動

・会員名簿の作成

平成19年度版を作成し、年次代表者に配布。

2 今後の活動

(1) 「総会及び同窓会」

今回は、平成21年8月に開催を予定している。

(2) 年次代表者会

総会及び同窓会開催に伴い、年次代表者、役員、世話役が集まり年次代表者会や総会の持ち方、進め方などについて検討する。

平成21年4月頃を予定している。

(3) 同窓会名簿

毎年、会員名簿を作成し、年次代表者に配布している。

英 語

(事務局 岐阜市立明郷中学校 山下敦子)

○18年度総会について

3年ごとに行われる総会を19年2月4日に開催いたしました。総会参加人数126名、懇親会参加人数71名と盛大に行うことができました。総会では、会務報告、会計報告、役員改選がありました。また、講演会では松川禮子教育長のお話を聞くことができました。

○次回総会について

次回の総会は、平成21年度を予定しております。多数の皆さまのご参加を願っております。

— ・ 編集後記 ・ —

☆同窓会報13号をお届けします

教育改革3法可決に伴い、教育が制度的にも大きく変わろうとしています。まず、教員免許更新制が挙げられます。開設者は教職課程を持つ大学に絞られ、しかも、受講者が講習内容の評価をし、大学はそれをホームページで公開するという展開を見せています。

学校教育法の改正で、副校長、主幹教諭、指導教諭といった新たな職が設けられます。それに伴い、文科省は3年間で7,121人の教職員増を概算要求に盛り込むということです。既に行政改革推進法があり、この先どうなることでしょうか。この制度、学校現場にうまく馴染むのでしょうか。

学習指導要領が改定されます。週5日制の定着した中、授業時数が10%増加します。小から中へ、中から高へ移された指導内容の多くが元に戻されます。その上、小学校高学年に新たに英語の指導が導入されます。ゆとりから一転して学校は過密ダイヤとなりそうです。

この会報がお手元に届く頃には、更に新たな動きが生まれていると思います。十分注視していただきたいものです。

☆ 教育学部の動向について

平成20年4月からの教職大学院の設置に向けて、本学でも申請をし、カリキュラム構築、学校での実務経験のある教員の採用計画等準備が着々と進められています。この会報がお手元に届く頃には認可がされるかどうか明らかになっているはずです。

平成21年度から教員免許更新制度が導入されます。県内に該当する私立大学は何校かありますが、岐阜大学が中心になることは間違いありません。当座は35歳、45歳、55歳の者が更新講習の対象になりますが、それでも毎年約2,000名の教員が5日間、30時間以上の講習を受けることになります。

本年度から、ACTプラン支援のためACT支援室が設置されました。4名の校長経験者が、教職トライアル・教職リサーチ・教職プラクティス・教職インターン等の実習のお世話をします。これにより本学が更に優秀な教員を輩出し、教育界をリードしてくれることを心より期待します。同窓会員一同、背中を押してくださいようお願いします。

(文責 中島)

第13号 平成19年12月発行

発行者 中舎 美津男

発行所 岐阜大学教育学部同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

岐阜大学教育学部内

TEL・FAX 058-293-2344